

三友会だより

我が家の味噌汁の復活

石川智信

「うふふ、もう、で・き・て・る・よ」。何やら得意げな笑顔で味噌汁を作ろうとした私を制止する。ふと見やると、暖かな湯気の立つ味噌汁が香ばしいにおいを漂わせていた。

妻が倒れてから、朝の味噌汁を夜遅く作っておくのが私の日課になっていた。料理らしい料理を作ったことのない私が、いろいろな人のアドバイスを受け、とりあえず野菜を多く取るために挑戦したのが、具沢山の味噌汁であった。強迫観念に取りつかれたように、最低でも5種類の野菜を入れるようにして作っていた。しかし野菜煮といっていほど汁の少ない味噌汁を前にしてため息をついていた私に、妻は、「いーよ、よし、よし」と励ましてくれていた。そして「あ・り・が・とう、ご・め・ん・ね」と、いつもお辞儀をしてくれていた。

考えてみたら妻が元気な頃、食事を用意してくれるのが当たり前という意識で、感謝の言葉をかけたことがほとんどなかったことを思い出した。せっかく夕食を用意してくれていたのに電話一本で、「今夜は急な会合が入ったから、夕食はいらないよ」と、妻の気持ちを顧みることなく簡単にキャンセルしていた。今思うと、どれだけその言葉が妻を傷つけていたか、悔やんでも悔やみきれない。

イタリア旅行から帰ってきた妻は何かが変わった。まず絵を描くことに関して、自分の絵に厳しくなったことである。以前は描く絵すべてが自画自賛できる自慢の作品ばかりであった。しかしイタリアの美術館や大聖堂で歴史上の名画を直接見て、いかに自分が素人であったかということを、いやというほど思い知らされたらしい。まず絵は楽しく描くことをモットーに教えて下さっていた水元画伯に、デッサンなどの基礎を教えて欲しいと詰め寄った。もともと数学の大好きな理系人間の本性が蘇ってきたらしく、理詰めで絵を描かないと納得がいかなかったらしい。

歩くことに関しても、杖をつかないことが多くなってきた。雨の日でもレインコートと雨靴を身にまとい、傘を麻痺のある右手に器用にからませ、左手で支えながら歩いている。転倒したら大変だと心配する私を尻目に、さっさと歩いていく。しゃべる言葉も豊富になり、歌のレパートリーも増えてきた。イタリア旅行が妻の脳に地殻変動をもたらしたようである。

妻の作った味噌汁は、見た目は私が作った味噌汁とあまり変わりがなかった。一個一個の具が大きく、不揃いである。しかしながら味は全然違った。懐かしい我が家の味であった。インスタントのだしを使う私と違って、以前と同様にいりこを煮出しすることから始める妻の味噌汁を口にして、ただただ、ありがたかった。よくそここまで復活してくれたと、一度は呪った運命に感謝するのみである。我が家の味噌汁の復活が、さらなる妻の再生へ繋がることを期待してしまう。



イタリア旅行紀行

石川万佐子

わたし おすこ ゆう た ろう やまだ ちよ か さん
私は息子の裕太郎と山田千代香さんの三人で
気儘なイタリア旅行に出掛けました。15日間の旅行
です。

先ず、フィレンツェに行きました。

フィレンツェでの初日は、街をぶらぶらしようと出掛け
ました。フィレンツェの象徴である大聖堂が見えてしま
した。白、ピンク、グリーンの大理石で作られ、彫刻が
施されていて、その美しさは、
荘厳そのものでした。
175年も掛かって作られ
た教会に、私はすか
り、見惚れてしまいました。

今回、沢山の教会も
訪れましたが、どこの
教会もシーンとして、



フィレンツェ花の聖母教会 ドゥオーモ

静かで、美しく澄み切った空気が心の中に染み
 透んでいきました。そして心が癒やされていくのを
 感じました。教会に何時までも居たい気持ちで
 した。



毎日食べたラビオリ



ヴェッキオ橋から見た風景



フィレンツェの夜景をバックに記念撮影



ホテルの朝食

美術館にも沢山行きましたが、ウッフィツ美術館
 のボッティチェリの「春」の絵が一番好き
 でした。その絵はとても大きなものでした。等
 身大の絵です (203×314cm)。



『春』 ボッティチェリ作

「春」の絵は表現の細やかさ、空気の透明感、布地の表現の美しさにとても感銘を受けました。

日本に戻り芍薬の絵を描きましたが、三回も書き直しました。私の絵に、なかなかならなかったからです。イタリアの沢山の絵に
出会い、私は少し変わり始めたような気がします。



スカイツリーの概要

- 1、 建築場所 東京都墨田区押上
- 2、 敷地面積 36,844.39m
- 3、 正式名称 東京スカイツリー
- 4、 高さ 634m （世界一）
- 5、 建築主 東武鉄道、東武タワースカイツリー
- 6、 目的 電波塔、展望台
- 7、 工事期間 2008 年 7 月 14 日～2012 年 2 月 29 日
- 8、 工事業者 施工 大林組 設計 日建設計
- 9、 総工事費 約 400 億円 総事業費 約 650 億円

スカイツリーの建設目的について

スカイツリーの建設目的は、既存の電波塔である東京タワー（高さ 330m）が位置する都心部では超高層ビルが林立し、その影となる部分に電波が届きにくくなる問題を低減させるほかにワンセグやマルチメディア放送といった携帯機器向けの放送を快適に視聴できるようにすることも建設の目的のひとつとされた。今度のスカイツリーで特記すべきことは新しい高層建築物と日本の古い「五重塔」の技術がミックスされたことではないだろうか。というのは日本の伝統的な塔である五重塔は、これまでに地震による倒壊例がないということに着目され、その秘密は、建物中央の柱＝心柱にあると推察され、その工法が用いられたということである。



第 47 回 祇園自治会大運動会



うちの子が一番よっ！！
By 神毛

子供たちによる選手
宣誓。この後も子供
たちは大活躍でし
た。



当院の職員、実習生も一生懸命頑
張っていました！

去年とは打って変わって透き通るような快晴の中、行われた第 47 回祇園自治会大運動会。老若男女入り混じって大盛り上がりでした。関係者の方々、ありがとうございました。また来年もよろしくお願いします。（祇園デイサービスセンター神毛・仁井・甲斐）

宮崎市

今年も特定健診・がん検診が始まりました!!

実施期間 平成24年6月1日～平成25年2月28日

いしかわ内科で
できる健診

特定健康診査・・・40歳～70歳
後期高齢者健康診査・・・75歳～
大腸がん検診・・・40歳～
前立腺がん検診・・・40歳～男性のみ
骨粗しょう症健診・・・40.45.50.55.60.65.70歳女性のみ

- ※1 当院での健診は予約制となっております。必ず受付窓口か電話で予約してください。
- ※2 健診を受ける日の朝は必ず食事を抜いてご来院ください。
- ※3 宮崎市より発行されている受診券と保険証を、忘れないようにご持参下さい。
- ※4 大腸がん検診で無料クーポン券をお持ちの方は、クーポン券も一緒にご持参下さい。

受診券を失くしたり、詳しいお問合せ先は・・・

宮崎市 国民年金課 健康指導係 Tel 42-2359



新人紹介



祇園デイサービス
非常勤看護師
原田 瞳

今年2月に熊本から神宮へ引っ越して来ました。4歳の息子がいます。子供が楽しめる場所を教えてもらえると大変嬉しいです。



デイケア
常勤介護職
富永 真代

5月1日に入社しました。
地元であるいしかわ内科で働ける事を嬉しく思います。
昨年一年間で9kg太った体重を今年一年かけてもどす予定なのであたたかく見守って下さい。



デイケア
非常勤介護職
深江 孝子

利用者の皆様が、沢山おしゃべりをし、笑って過ごして下さいよう心がけていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



厨房 調理師
和田 小百合

利用者さんが笑顔になれるような食事を作っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

映画日和 「エンディングノート」

渡邊 紀代子(外来看護師)

わたくし、終活に大忙し・・・。

このフレーズに、私は胸を打ち抜かれた。「就活」ではなく「終活」と書いてあったのだ。正直驚いた。理想では、不治の病を宣告された時に、身辺整理や遺書を書きたいとは考えていたが、肉親が人生の終わる瞬間に向かって生きていく姿を撮り、映像化する事が、観衆にどのように受け入れられるのか、スクリーンを通してどんな最期を迎え、何を伝えてくれるのか、事実を確かめたいと思い映画館に足を運んだ。

がんを告知された父。それを記録し続けるのは愛娘。彼が取り組んだのはエンディングノートと呼ばれるマニュアル作り。遺書よりフランクで法的な効力を持たない。死を迎えるまでの段取りは彼の一大プロジェクトになった・・・。映画は淡々と日々の出来事が記録されユーモアたっぷりの父の姿が印象的だ。病と向き合い、常に前向きに生きる主人公が発する言葉がスーッと心に染み入ってくる。素直で、時々弱音も出る。もちろん治療にも遊びにも全力投球。妻や娘との距離感も見どころの一つ。私は大笑いしたり、急に涙があふれて、共感してみたり。「死」がテーマなのに節操がないのかと不安になるほど入り込んだ。自然に、心温かくなる、とにかく人間臭い愛すべき主人公だった。

終末期の方の多くは、懸命に治療に時間を費やし、体力や気力まで奪われる。しかし、愛する家族に支えられながら葛藤し、家族のために生き抜いている。私は仕事柄、沢山の方々と出逢い、お別れもしてきたが、その生きる姿が今でも心に深く刻まれ、大事な宝物になっている。この映画を通して、自分の周りの全ての人が愛おしくなった作品だった。是非この主人公に出逢ってみてくださいませ。

- リスト＊
- 1、神父を訪ねる
 - 2、気合いを入れて孫と遊ぶ
 - 3、自民党以外に投票してみる
 - 4、葬式のシミュレーション
 - 5、最後の家族旅行
 - 6、式場の下見をする
 - 7、洗礼を受ける
 - 8、長男に引き継ぎ
 - 9、妻に(初めて)愛してると言う
 - 10、エンディングノート



熱血営業マンだった父 (c) 2011
「エンディングノート」製作委員会

【編集後記】

今回より、万佐子先生のイタリア旅行記を連載する事になりました。2週間の旅行で、いろいろと感じた事を自筆で寄稿して頂きました。原稿を読むと、本当に楽しい旅行だったのだらうと推察できます。ただ、原稿と一緒に送ってきた写真は、半分以上が「食べ物」の写真で、旅行には『食文化』を楽しむ事が必須なのだなと思いました。次回の原稿を楽しみにしています。(甲斐)

